



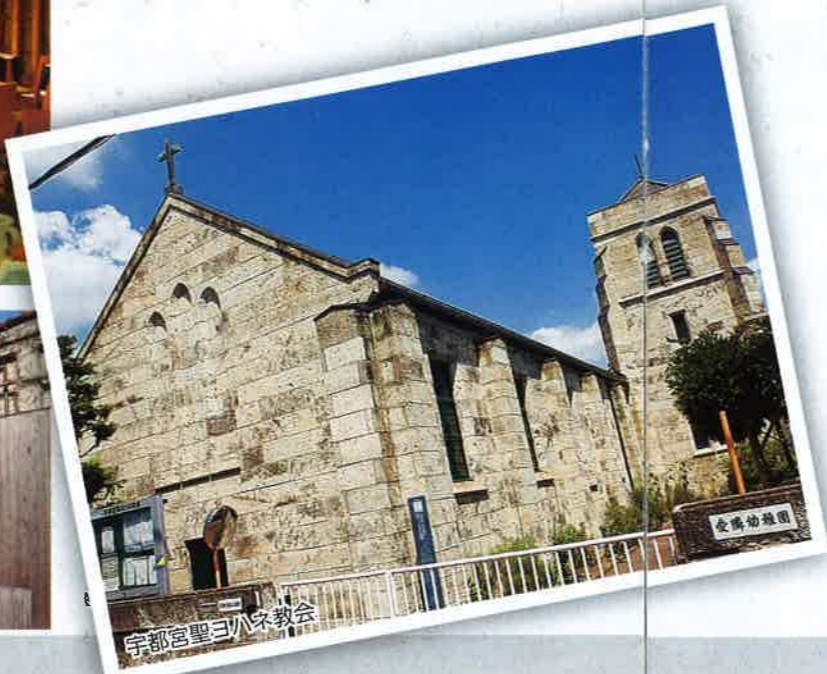
悠目カフェ



悠目カフェ(ステージ)



悠目カフェ(外観)



宇都宮聖ヨハネ教会  
大谷幼稚園



カトリック松が峰教会

# 大谷石のある暮らし

大谷地区には、大谷石の産地としての営みと密接に関係しながら造られた、大谷独特の風景が点在しています。また、大谷地区から少し離れた市街地の暮らしても、大谷石は、家の塀や倉庫の建材として使われていたり、休憩場所の腰掛けとして使われたりしているなど、私たちの生活の中に、さまざまな形で溶け込み、親しまれています。

今回は、大谷石の建物を再生し活用している人、大谷への観光ツアーを企画・運営している人、大谷石彫刻家、有識者といった、大谷にさまざまな角度から携わっている人たちに焦点を当てます。



「悠目」オーナー 柏崎 健次さん

## ■大谷石倉庫群との出会い

私は、南宇都宮駅前の吉野町でギャラリーやカフェを経営しています。今でこそ、ギャラリー、カフェの他、和食のお店やスタジオがあり、たくさんの方が集う素敵な空間になっていますが、それ以前は、この倉庫は誰にも使われずボロボロで、ごみや雑草の中で悲しそうにたたずんでいました。この倉庫群を活用しようと思ったきっかけは何か、と言われると、正直、とても困ります。強いて言えば、私はこの倉庫を見るたびに、何か心を揺さぶられるような、言葉にならない思いがふつ

ふつと沸いてきたことがきっかけだと思います。そんな不思議な感覚になってからは、まるで運命に導かれるように、いろいろな人と出会い、いつの間にか、この倉庫群のオープンに至っていました。そして、今もこれからも、何かを表現するアーティストや、何かを感じて帰路につく人など、いろいろな人がここに集うようになってくれることが、私のやっている大谷石倉庫群の役割だと思っています。

## ■吉野町にある良い野原「ファイン・フィールド」

この倉庫群の活用をきっかけに、いろいろな人が集うようになりました。ここは「ファイン・フィールド」と命名され、4月下旬頃には、市文化会館などと連携したイベントを実施しています。このような取り組みや、日頃からの創作活動によって、ファイン・フィールドの周りには文化が香り、ここに暮らしたりイベントに参加したりする人たちが楽しく、気持ちよく過ごすことができるまちなってきただけではないか、と感じています。私は、楽しさが感じ取れるまちや場所には、自然と人が集まってきて、にぎわいが出て来るものだと思います。

## ■コラボレーションで生きる魅力的な石

私にとつての、最大の大谷石の魅力は、「周りとの調和力」と「相手を引き立たせる力」だと思います。この倉庫群自体も、それ以前は古びた空き倉庫でしたが、整備していくと、周りの住宅街から浮くことなく、なじんでいきました。また、ギャラリーで絵画や彫刻などの美術作品を展示しても、音楽を奏でても、大谷石と作品・音楽が見事なまでに調和し、大谷石自体が主張し過ぎることなく存在しながらも、主役を柔らかく、かつ、しっかりと引

宇都宮に住んでいると、あまりに日常的に大谷石の塀や石畳の風景を目にしているためか、無意識に見過ごされ、その魅力や素晴らしさに気付いていない人が多いと思います。見慣れすぎて、何とも思わなくなってしまう。例えば、自分の家に大谷石の塀があったとしても、きつと普段はしないかもしれないが、一度、石の面に触れて、そつと目を閉じてみてください。石を切り出した職人の息づかいや想いを感じ取ることができると思います。また、市内の人にも、市外の人にも、ぜひ、大谷の大谷石地下探掘場跡に行つてほしいと思います。あの巨大な地下空間を見て、岩肌や空気に触れたとき、きつと何かを感じ取ることができるとは思いません。あれだけの規模の、現在稼働中の大谷石の産地がこの宇都宮にあるということ自体、とても希少なことで、もつともつと、私たち宇都宮市民が誇るべきことなのだと思います。私たちの日常生活の中に、大谷石がこれほどまでに生活の一部になっているのは、大谷石の産地がすぐそばに存在しているからこそなのです。